

総合衛生管理サービスの赤門ウイレックス（本部長久手市）の社長に山田晃也氏（47）が就任して半年が経過した。工場など製造現場の環境衛生問題について、調査から改善策の提案、施工までをワンストップで請け負うサービス体制で成長を続けている。「人が暮らす、働く、集う。すべての場面にニーズがある」と話す山田社長に、力を入れる事業などについて聞いた。

（聞き手・天野こず重）

衛生的・機能的空間つくる

「就任から半年が経過した。――足元の状況は。」

赤門ウイレックス社長
山田 晃也氏
（やまだ・あきや）

「当社は86年前に名古屋に開局した赤門大薬局を起源としている。これまで築き上げてきた伝統や信頼をしっかりと受け継ぎ、発展

する企業を目指す」

「現在、海外も含めて9

30社以上の多種多様な企業と取り引きがある。定期的なメンテナンスに加え、

近年は規制が強化されているアスベストについての問い合わせや相談を受けることも多い。新型コロナウイルスの影響を受けている部分はあるが、衛生的な環境をつくる

させることが使命だと感じている。当社の事業は、安全で快適な暮らしのために、衛生的で機能的な空間をつくることだと考えている。

「力を入れる分野は。」

「これまで培ってきたノウハウをもとに、高度な分野にも挑戦し、顧客数を伸

ぶれずに、社会に貢献でき

再生医療クリーン ルーム管理など 高度分野にも挑戦

ばしていく。再生医療関連のクリーンルームの維持管理などで、今後伸びる分野だと考えている」

「当社の創業者が『科学する心をもって仕事をする』

――社内的には。

という言葉を残している。これは見た目だけではなく、科学的な根拠を顧客に伝えて信頼を築けというこ

と。例えば、清掃の前後でどれくらい菌が減ったのかを数値で示す。これまでも行ってきたが、今後はより高い精度で提示できるように、技術を追求していく」

「内部組織を強化しなければならぬ時期にきていると感じている。現在の社員数は210人で、ここ10年で倍増、拠点数も増加している。そのため、人事評価の仕組みの改善を進めている。女性管理職の育成にも着手したい。また、自社開発の環境負荷の少ない洗剤の使用や、オリジナルの捕虫器の省エネ化など、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みも推進していきたい」



「女性管理職の育成などで組織の活性化を進めたい」と話す山田社長

